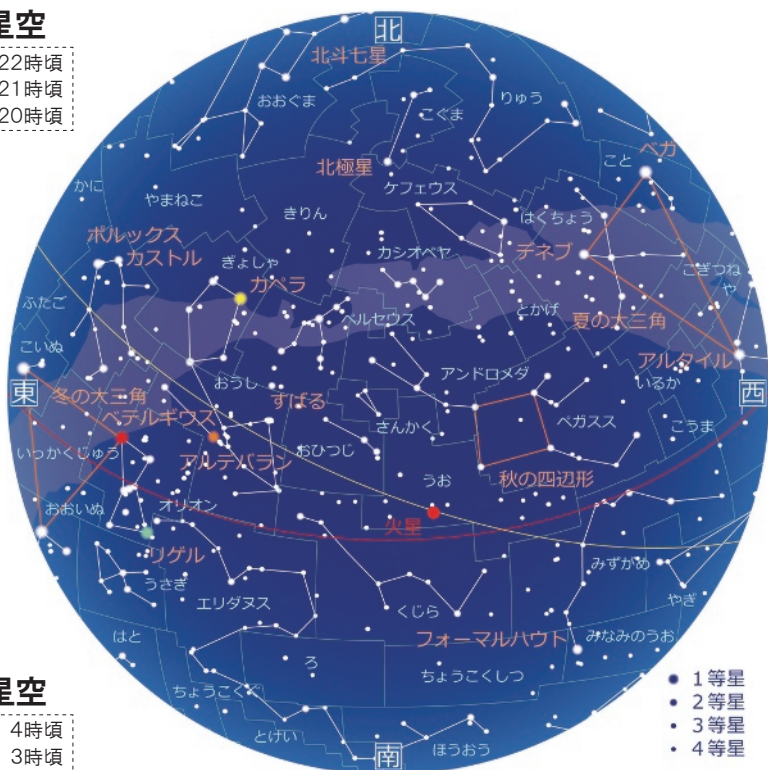


# 星空ガイド 11月16日～12月15日

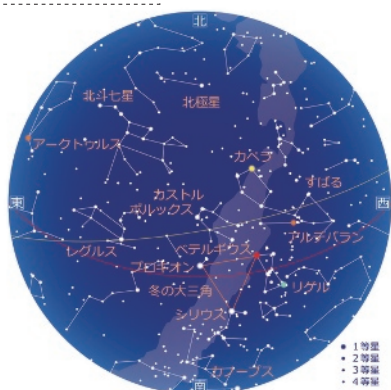
## よいの星空

11月16日22時頃  
12月1日21時頃  
15日20時頃



## あけの星空

11月16日 4時頃  
12月1日 3時頃  
15日 2時頃



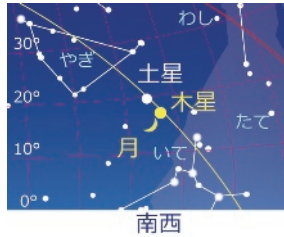
[太陽と月の出入り(大阪)]

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
11	16	月	6:32	16:52	7:25	17:46	0.9
	21	土	6:37	16:50	12:18	22:44	5.9
	26	木	6:42	16:48	14:45	2:33	10.9
12	1	火	6:46	16:47	17:25	7:16	15.9
	6	日	6:50	16:47	22:08	11:27	20.9
	11	金	6:54	16:47	2:34	14:15	25.9
	15	火	6:57	16:48	7:22	17:16	0.4

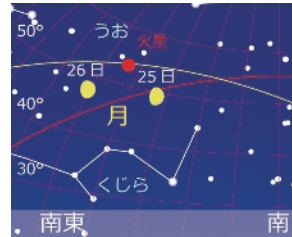
※惑星は2020年12月1日の位置です。

### 月と惑星の接近

秋の星座には明るい星が少なく、星空の方も少し寂しい季節なのですが、今年の秋は火星・木星・土星と明るい惑星が3つも見えて、たいへん華やかな星空になっています。



11/19 月と木星・土星



11/25-26 月と火星

日が沈んですぐ、南西の

空には、木星と土星が並んでいる様子を見ることができます。また南東の空高い所には、最接近を過ぎた火星がまだマイナス1.5等級という明るさで輝いています。

これらの惑星のそばに、時折月が接近し、さらににぎやかになることがあります。11月19日には、木星・土星のそばに細い月が近づきます。また25日から26日にかけては、火星のそばを半月過ぎの月が通り過ぎる様子が見られます。

### ふたご座流星群が極大

12月14日に、ふたご座流星群が極大となります。今年の極大は14日の朝と予想されていますので、特に13日の夜から14日の明け方にかけて、一番流れ星が多く見られると期待されます。

この流星群は当たりはずれが少なく、毎年1時間あたり20～30個程度の安定した数の流れ星が流れます。今年は15日が新月のため月の影響もなく、たくさんの流れ星を見ることができるでしょう。

### [こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
11	16	月	金星とスピカが接近
	17	火	しし座流星群が極大のころ
	19	木	夕空に木星、土星、月がならぶ
	22	日	●上弦(14時)小雪(太陽黄経240°)
	23	月	勤労感謝の日
	26	木	月と火星が接近
	27	金	月が最遠(405,900km)
	30	月	○満月(18時) 半影月食(16:32~20:53)

月	日	曜	主な天文現象など
12	6	日	「はやぶさ2」地球に帰還予定
	7	月	大雪(太陽黄経255°)
	8	火	●下弦(10時)
	10	木	海王星が東矩
	13	日	月が最近(361,800km)/ハワイなどで金星食/明け方に月と金星が非常に接近
	14	月	ふたご座流星群が極大(7時)/南米などで皆既日食(日本では見えない)/ヨーロッパなどで水星食
	15	火	●新月(1時)

江越 航(科学館学芸員)